

学校再開 「学校で学ぶ」とはどのようなことか？

昨日6月1日より、学校が再開されました。緊急事態宣言解除を受け、一週間の分散登校など段階的な準備を踏まえての再開です。しかしながら、新型コロナウイルス感染拡大の状況は決して安心できるものではありません。北九州市など第2波ともいえる感染拡大の状況も見られます。東京都では、今日は30人以上の感染者が報告されました。

先回お話したとおり、だからといって、100%コロナ終息という状況まで、感染防止だけを考えて生活することはできません。

だからこそ、一人一人の感染防止に対する高い意識と、徹底した取組が必要になります。と同時に、再開するという事は、その本来的な目的、学校で学ぶということの意味や価値が達成されなくてはなりません。

「学校再開」 学校で学ぶとはどのようなことでしょうか？

課題配信やリモート授業ではなく、学校で学ぶということ、人と人が共に集い、学び合うことの意義とはなんのでしょうか？ 近くにいるということに関わりやすい、質問したり、意見交換したり、同じ空間、時間を過ごすことで、相手を感じたり、思いやったりすること、映像や画面とは比べものにならないほどの価値ある情報がそこにはあります。学校再開は、そうした利点を最大限利用することで意味をもつのです。

休み時間など、手洗い場の混雑、体育時間の更衣や登下校時の玄関や交通機関、どうしても混み合う場面もあります。そこで、どこまで工夫や配慮ができるか、それも、新しい生活様式の一つでしょう。その状況判断やそこでどのようにふるまうか、こうした思考と行動も、学びの一つであると考えてほしいと思います。 WITH コロナの時代をよりよく生き抜くこと、学校再開の学びのテーマの1つです。

さて、高志中等教育学校は、「志の涵養」を教育目標に掲げています。今、世の中では未来の社会のキーワードの1つに「志」が考えられています。OECDが提案するエデュケーション2030でこれから必要となる力として、「新しい価値を創造する力」「対立とジレンマを克服する力」「責任ある行動をとる力」の3つをあげています。そしてこれらは、個人が夢をかなえ、幸福に生きることだけではなく、社会全体が、世界が持続可能で、健康な状態であるということと不可分であることが述べられています。一人一人が、自分のことから、世界をよりよく変えていこうという「志」が不可欠であるということです。

3年前から、「世界青少年『志』プレゼンテーション大会」が開催されています。日本を中心に世界各地の10歳から22歳までの青少年が、自分の志をプレゼンし、そして、その優秀者に対して、財団が志の実現に向けて様々な援助、応援をしてくれるというプロジェクトです。昨年は、当校から4人が応募し、そして、2名が一次審査を通過し、二次審査に進みました。本年度も、募集が始まりました。ぜひ、ホームページを覗いてください。

昨年度のファイナリストたちのプレゼンを動画で見ることができます。昨年、私も審査員の一人として招待され、熱意あふれるプレゼンに心をふるわされました。情熱は伝染するものと改めて感じ、自分もまだまだがんばれねばと熱い気持ちになったことを覚えています。高志中等教育学校の生徒にも、あの大舞台に立ってほしい、そして、あの高い志を抱き、日々奮闘努力する青少年たちと出会い、刺激を受けてほしいと切に願います。

※ <https://wyk.kokorozashi.me/>

さて、本年度から、PTAのみなさんのご理解とご協力を得て、土曜活用に、様々な大学の先生方や企業の方、NPOなど、研究や社会活動などに意欲的に取り組んでいる方からの講演やワークショップを取り入れることになりました。

昨日、お知らせしたとおり、今週の土曜日、6月6日には、新潟大学人文学部の阿部ふく子先生と哲学を専攻する大学院の学生に来ていただき、「哲学対話」を開催します。コロナ対応を考え、1教室に10人程度と密を避け、マスク着用での対話となりますが、ぜひ、多くの方に参加してほしいと思います。

「哲学対話」については、昨年5月に日本経済新聞に「キセキの高校」として連載されました。偏差値40の都立高校で哲学対話を取り入れたところ、上智大学など有名私立大学、公立大学への進学者が増えたというキャッチーな内容からはじまり、なぜ、哲学対話がそのように生徒を変えていったかが記されていました。「自分を見つめ壁を越える力」「問いを重ね本質追究」など、「哲学対話」の可能性を感じ、当校の先生方にも紹介しました。新潟大学の阿部先生は、大学の授業だけでなく、昨年9月に「中高生のための哲学対話」などのイベントを行っており、当校からも自主的に参加した生徒がいました。哲学対話を経験した生徒から、「ぜひ、高志中等教育学校でもやってほしい」という声ももらっており、今回の企画につながりました。

WITH コロナから After コロナへ、やがて時代は変わっていきます。テレワークの普及による働き方の見直し、これから始まる5G革命、AI、ICTの加速度的発達、普及、Society 5.0の、その先の未来社会、世界はどのように変わっていくのか？ みなさんは、その世界で生き、支える世代です。そのときに必要となるが、哲学ではないでしょうか？新型コロナウイルスで大きく揺れる現在、奇しくも、先月号の「NEWTON 6月号」の特集は「哲学科学を生んだ人類の思考」でした。科学は哲学から生まれ、そして、哲学へと帰結していく、そんなことを考えさせられる特集でした。興味のある人は、ぜひ、ブラウジングルームで読んでみてください。

学校で学ぶということは、人と人とのつながり、かかわりにより、学ぶということだと思います。エチケットやマナー、配慮といった関わり方を大切にしながら、異なる考え、価値観、経験をもつ、他者とかがわることで深まる学びこそ、大切にしてほしいと思います。